■柳沢淇園(柳里恭)
やなぎさわきえん
国十郎刺殺・1704＝

儒学者、文人画家。多才な風流人で、南画の先駆者。

江戸の柳沢吉保の家老曾根保格の次男に生まれる。吉保が甲府藩の領主になったのに従い、甲府に移る。

父は吉保に柳沢姓を許され、名に吉の字与えられるほど寵愛され、母は山崎勾当の弟子で将棋を嗜む。

幼時からエリート教育を受けて、文武に才能を示し、

徳川綱吉没・1709＝5歳：この年、吉保が隠居し、子の吉里が藩主となる。
・・・・・・1710＝6歳：早くも、父の家禄を兄と二分して受継ぎ、馬廻り役に任じられるほど、特別扱いを受け、
1711＝7歳：狩野派の画を学び始めるが、

和漢三才図会1713＝9歳：

元服して、主君吉里の一字を拝領して里恭と名乗る。

国姓爺合戦・1715＝11歳：形骸化していると批判して、長崎派の画家渡辺秀石の門人吉田秀雪(英元章)に師事するほど早熟で、

徳川吉宗將軍1716＝12歳：儒学は荻生徂徠やその高弟服部南郭に、書は細井広沢という超一流について学び、

隅田川の桜・1717＝13歳：江戸に帰る。

御蔭参流行・1718＝14歳：*早くも「文実夜話」「青楼夜話」を著し、「青楼十牛図」「羅漢像」を描いたと伝えられる。

・・・・・・1719＝15歳：甲斐に来て江戸に帰る。

書画のほか、詩文、篆刻、音楽、医学、仏典などにも通じ、すでに一流文人の仲間入り。

小石川薬園・1721＝17歳：甲斐に来る。

・・・・・・1722＝18歳：

独学で、元明から将来した古書画や画譜を模写して、画論を学ぶなどして、奥義を極め、

近松没・・・1724＝20歳：柳沢吉里の国替えに伴い、郡山に移る。随筆にも優れ、自伝的随筆「ひとりね(独寝)」は特に著名。

奇行多く奔放で、自邸で異常と思われるほど頻繁に宴席を催すなどし、

梅岩心学始・1729＝25歳：不行跡により謹慎を命じられる。

・・・・・・1730＝26歳：兄が亡くなり、

・・・・・・1731＝27歳：*その養子も死去したことから、家督を相続。その後も文芸にたしなむ一方、公務も精力的にこなし、

享保大飢饉・1732＝28歳：

長崎派の影響を強く受け、細密な写生と濃厚な賦彩による作品を数多く残し、指や爪に墨をつけて描く指頭画をも得意とし、特に竹を好んで描いた。

・・・・・・1736＝32歳：池大雅の才能を見出して弟子にし、指頭画の技法を教えて、影響を及ぼす。

・・・・・・1740＝36歳：

・・・・・・1749＝45歳：

徳川吉宗没・1751＝47歳：

宝暦事件・・・1758＝54歳：没した。

多くの著作したが、その刊行はほとんど没後。